



秋の円筒分水

このまちとともに



文教委員会の決算審査分科会質問（市議会第3回定例会）

助産師を各区役所に配置し、母子支援の充実を！

助産師の減員で母子支援の後退が懸念

本市の出生数は前年より増加、しかし区役所保健福祉センターの母子保健、母子支援を担う助産師は、今年度、地域見守り支援センターに再編後、各区1人配置から2区兼務に減員されました。

これまでは母子手帳の交付時や育児相談したときに助産師がいて心強かったという声や、新生児訪問指導や産後ケアを委

託されている助産師会から、心配なケースを区役所の助産師に早くつなぎたいのに、2区兼務で遅くなる事もあるという意見を紹介しました。

助産師を各区に配置を！児童相談所に児童福祉士の増員を！

2015年1月に市内で発生した乳児虐待事例から「児童虐待重症事例報告書」をだした児童福祉審議会は提言として・母子手帳交付時の面接の重要性・乳幼児健診の未受診への丁寧な

0・1歳児の認可保育園入所が特に厳しい実態が！

4月に認可保育園に申込んで入れなかった（保留児）2554人の中で最も多かったのが1歳児で1329人（52%）、次に0歳児771人、2歳児331人で、0歳から2歳児までが保留児の95%を占めています。石田議員は認可保育園（以下、認可）に入れない厳しい実態を紹介し待機児解消策について質問しました。

育児休業切り上げ認定保育園へ

育児中のママは来年4月に職場復帰のため区役所に相談。認可に入るかどうか分からないから育児を切り上げて、いったん認可外の認定保育園（以下認定）に預けたらどうかと言われ、悩んだ末認定に入所させた。一方、認定も順番待ちで、認可に申請する場合、順番は後ろになると言われ、認可に入園できない場合も考えて認定一本にしたという実態も。

認定から認可への申請がしづらい

認定に在園中のママたちから、来年4月にむけ認可に申請したいが、認可に入所出来ない場合に当認定の席の確保が難しいといわれ悩んでいる。対象が2歳児までの認定では、また保活をしなければならず、継続して通える認可保育所をもっと増や



来年度の開館に向け
庭を整備中の小黒恵
子童謡記念館

してなどの声が寄せられています。

川崎市の待機児解消策は…

市は、認可保育園を整備するとともに、認定保育園等に直接入所が増えているとし、認定保育園などを積極的に活用するとしていますが、認定に直接入所が増えているのは、認可保育園が不足しているからです。さらに、認可の入園選考基準に認定など認可外に入園すると、保育の必要度が高いと判断し加点をつけていますが、いったん認定に入ると認可に申請しづらいなど市の施策に矛盾が生じていると指摘しました。



認可の緊急増設と認定への保育士加配を要望

●石田議員はゼロ歳から就学前まで安定的に進級できる園庭のある認可保育所の緊急増設を。公有地の積極的な活用。老朽化した公立保育所の建替え時の仮園舎用地への整備が出来ないか質問しました。また、在園するこどものために認定にも、認可と同様に休憩休息保育士や年休代替保育士の加配を要望しました。

アプローチ・児童相談所、地域見守り支援センターの職員体制の充実や人材育成を図りたいと指摘しました。

●石田議員は、①助産師を各区に配置すべき ②児童相談所に不足している児童福祉士の増員を強く求めました。

▼こども未来局長は、①地域見守り支援センターの検証を行なう中で、母子保健の充実に向け助産師を含めた専門職の全体的な配置を関係局と検討する。

②児童福祉司については、児童福祉法の改正で標準とされた職員配置を進めると答弁しました。

安全安心のまちづくりへ

危険な下作延交差点の安全対策について

6月議会の石田議員の質問に対し、「停止線や横断歩道の位置の変更、信号機移設等により、交差点をコンパクト化することで通過する車両の速度抑制を図り、歩行者の安全対策を推進してまいります」と答弁があり、早期実施を要望していましたが、10月21日、停止線の引き直しは済んだとの一報と写真の提供が住民の方からありました。今年度内には終了予定とのこと。



第3京浜の玉川料金所下の測道の草刈りが終わりました



溝口3・24と25の間の道路の傷みが舗装されました

2014年のアンケートで寄せられ、応急手当がされていたが、今回きれいに舗装されました。



教員の欠員解消と政令市 移管について質問

欠員増大！欠員の解消に全力を注げ

教員の定数内欠員が増加し(表)、この間、共産党は欠員の解消を強く求めてきました。

市は、受験者数と合格者数の減少、採用辞退や定年以外の退職者が見込みを上回ったとしていますが、募集計画そのものが問われます。

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	合計
2015年度	81	136	36	71	324
2016年度	124	114	40	65	343

●石田議員は、欠員を解消するだけの募集計画になっているのか質問。▼担当課長は定年退職者数とそれ以外の退職者見込み数との合計を上回るよう募集人数を設定しており、現在の欠員を一定程度縮減できるものと考えたと答弁しました。

●石田議員は一定程度の縮減では納得出来ないとし、欠員解消への取組強化を強く求めました。川崎に志望が増えるよう教育環境を充実・改善すべきです。

教員の給与と勤務条件が県から政令市に移管

来年度から県費負担教職員の給与及び教職員定数等が都道府県から政令市に権限が移譲されます。

●石田議員は、移管の際に少人数級の拡充等、教育環境を充実すること、教員の勤務条件が県と比較し、住居手当の減額や

年休の時間休制度がなくなるなどいくつか不利になる案も見受けられるため、不利にならないようにと質問しました。

教育長：教育水準の向上に向け努力すると答弁

▼教員長は、「教育水準の更なる向上に向けて努力しながら現場の先生方や子どもたち、保護者の方々が、この移管があつてよかったと思われるようにしていくことが必要である」との決意を示しました。

教職員は昼休みも残業手当などもない等、職務と勤務態様の特殊性を踏まえ対応する「教育公務員特例法」にもとづきます。

▼担当課長は、勤務条件は若干の差異は生じるものの全体として大きな変動が生じないよう十分な調整を図っており、移管後も必要に応じ、協議・検討を進めると答弁しました。

少人数数学級の拡大を

▼担当課長は、県から移譲される財源は個人住民税所得割分の2%相当とされているが、児童生徒数や教職員数が増加していることから、さらなる財源確保の取組が必要となると答えました。

●石田議員は、川崎市の財政は

厳しいとは言えず、むしろ豊かであることから、教育の財源をしっかりと確保し移管を機に市独

障がい者支援策の拡充を

共産党代表質問

自ら少人数数学級の拡大を保障する教職員定数を前進させることを強く求めました。

シヨートステイの拡充とミドルステイの創設を



①シヨートステイはいつも一杯で、予約の電話がつかない、つながっても空きがなく断られることが多いので受け入れの拡充を。②シヨートステイは長期利用が出来ないので親が入院したとき、施設を次々替えなければならぬ。東京都江東区、渋谷区、目黒区のように1ヶ月から3ヶ月、6ヶ月のミドルステイの創設について質問しました。

▼健康福祉局長は「福祉センター跡地活用施設や第2期通所事業所整備計画に基づく通所施設に併設する形で拡充に努める、ミドルステイについては、実態の把握に努め、必要な対応について来年度改定する第4次ノーマライゼーションプランの策定のなかで検討する」と答弁しました。

自に少人数数学級の拡大を保障する教職員定数を前進させることを強く求めました。

発達障害のある親支援・ペアレントメンター事業の実施を

発達障害のある子を育てた自らの経験や知識を生かし、同じ発達障害をもつ親の悩みを傾聴し、地域の情報提供などを行ったりしながら寄り添い支える「親による親支援」を行なうペアレントメンターの養成とその活動をコーディネートするペアレント事業の実施について、質問しました。

▼局長は「家族支援の有効な手段の1つと考えるが、人材の確保、育成などに課題があると考えており、今後他の自治体の実施状況を踏まえ、発達相談支援センター及び関係団体と連携を図りながら検討して参りたい」と答弁しました。



「育成会手を結ぶ親の会」との懇談会であいさつする石田議員

新潟県、新潟市の少人数数学級の取組を視察

(10/21)

新潟県は、この間少人数数学級



を拡充し、小学1・2年は32人以下学級、小学3年から中学3年まで35人以下学級(下限25人)です。実施のための加配教員は、全て国からの「研修等定数加配」を活用しているとのこと。

新潟市立木戸中学校に訪問、30人以下のクラスもあり教室の空きスペースが授業の落着きとゆとりを生み出していると感じ

ました。先生も生徒の声も静か！校長先生は一人一人に目が行き届くといわれ、市教委の課長さんも、政令市移管後もこのまま少人数学級を続けたいと、現在検討しているとのこと。

川崎では現在、35人以下学級は小学1・2年生だけです。拡充をめざし引き続き取組んでいきます。